

# ずしし環境会議 ニュース

第8号

2004年3月

発行 ずしし環境会議（エコリーダーズ会議）

事務局 逗子市環境部環境管理課  
逗子市逗子5-2-16  
TEL 046-873-1111 内線256

## より良い展示を目指して

昨年度に引き続き、今年度の市民まつりにおいても、ずしし環境会議（エコリーダーズ会議）の展示を行いました。秋晴れの空の下、多くのご来場者に足を運んで頂き、大変満足いく展示を行うことができました。

### 展示の様子

前回に続き2回目の参加となる今回は、前回の課題であった“視覚的に興味・関心が高まるような展示”“参加体験型の展示”に重点を置いて展示を行いました。

また、ただ来場者を待つだけでなく、各部会の説明員が積極的に来場者とコミュニケーションをはかるように努めました。



名越谷戸の模型

まちなみと緑の創造部会では、名越谷戸に関する展示を行い、地形模型などの展示と同時に部会で製作したパンフレットを配り、名越谷戸をもっと知ってもらうために積極的にPRを行いました。

また、田越川の魚（アユ・オイカワなど）の水槽展示を行い、親子連れや子供達に大人気でした。

ごみ問題部会では、容器包装の価格と現物を展示しました。「こんなに高いなんて！」と来場者から驚きの声が上がっていました。



容器包装の価格と現物

二酸化炭素削減部会では、踏切問題のパネルとともに、省エネコーナーを設置し、家電製品の待機・消費電力測定を行いました。実際に来場者の方々が測定し、部会員のアドバイスに熱心に耳を傾けていました。



省エネコーナー

### 展示から学ぶ

市役所1Fロビーで行う環境月間の展示と違い、市民まつりでは親子連れ、若いカップルなどさまざまな方々がお見えになります。

そのような中で、今回「市内 JR の踏切内の歩行者用通路が狭く、大変危険であるため拡張したほうがよい」というような貴重な“生の声”が寄せられました。

また、実施したアンケートにおいても、“逗子海岸に木を植えてほしい”“逗子から世界へごみを流さないでほしい”“市民の連携が必要”等の意見もありました。

私たちにとって展示とは、活動報告の場であると同時に、来場者の方々とふれあい、語り合いながら、貴重なご意見をうかがう“学びの場”でもあるのです。

このような大切なご意見を真摯に受け止め、今後の活動の参考としていきたいと思っております。

今後の展示においても、展示についてのご意見、環境に関する疑問点・要望などがございましたら、お気軽に声を掛けて下さい。



### 私たちの活動に参加しませんか。会員募集中！

ずしし環境会議は、環境に関するあらゆる取組みを行っており、まもなく発足から3年が経とうとしています。

現在会員数は58名で、月1回程度の部会や、年1回の総会、交流会、環境月間や市民まつりにおける展示などを行っています。

#### 入会申込み・お問合せ

見学・体験入会も大歓迎です！下記までお気軽にご連絡下さい。

事務局：環境部環境管理課 TEL 046-873-1111 内線256



交流会の様子

# まちなみと緑の創造部会

当部会は、「逗子のまちなみと緑を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。逗子の現状認識を共有するために、実際の場所を見て歩き、そこで発見したテーマや課題について意見交換をしながら、環境の改善に向けて必要と思われる調査・観察・提言や講演会の開催などを行っています。現在、「名越谷戸エコアップ」「ハイキングコースの見直し」「環境マップ作成」に取り組んでいます。この他にも「大崎の磯の景観保全」や「東郷橋通りと旧浦賀道のまちなみ形成」等にも取り組む予定です。

## 名越谷戸エコアップ

～その後の作業状況～

名越谷戸のエコアップ作業も参加して下さる方々が増え、月に2回定例で行われるようになりました。



手を休めてふと見上げると、紅葉している木々の美しさや空の青さに驚きます。以前散乱していたゴミも、今では見当たりません。この谷戸を大切にしたいと思う人たちと共に作業し、より良く変わっていく谷戸の姿を実感できることが幸せです。12月には、子ども達の教育の場として活用したいと、久木小学校の校長先生とPTAの方々が視察にみえました。

2月にはカエルが卵を産み始めます。キブシの花が咲くと、ヤマザクラの花が谷戸の尾根を彩る日が来るのも間近です。

### ◆◆◆◆◆ 昔はこんな姿だった～古老に聞く名越谷戸～ ◆◆◆◆◆

里山保全活用を目指してエコアップ作業を進めている私達は、この谷戸が以前どのように利用されていたのかを、ぜひ知りたいと思っていました。幸い、終戦前後にここで米作りをしていた方が今も久木にお住まいだとわかり、一緒に現地を歩きながらお話をうかがうことができました。

一名越溜池-:「もともと農業用水用に利用されていた溜池だったが、消火用の水に使ったこともある。一時期、釣り堀として利用されていた。」  
溜池上部の湿地帯-:「階段状に田が並んでいて、東側の山裾は畑に利用していた。」

一法性寺下の溜まり水の井戸-:「井戸から流れる水は今よりずっと多く、飲み水として売るために逗子の街まで運ばれていた。」

一法性寺斜面に広がる竹林-:「ここは広いカヤ原で、葺き屋根の材料として毎年秋にはカヤの刈り取りに集まった。」

などなど、当時を振り返り話が尽きません。最後に、「この辺の雑木林は15年程のサイクルで伐採して斜面の日照と風通しを良くする必要があるが、最近50年以上も全く手入れしていないので荒れ放題になっている。緑は沢山あるけれど樹木の手入れしていないので雑然としているし、草も乱雑に繁っているだけで、これでは山とは言えない。ただの荒地だ。」という言葉に、今とは違う当時の生き生きとした谷戸の様子が偲ばれました。

私たちが手探りで進めてきたエコアップ作業が、大筋では間違っていないことがわかり、今後の作業にも大いに参考になりました。

## 水辺環境マップづくり

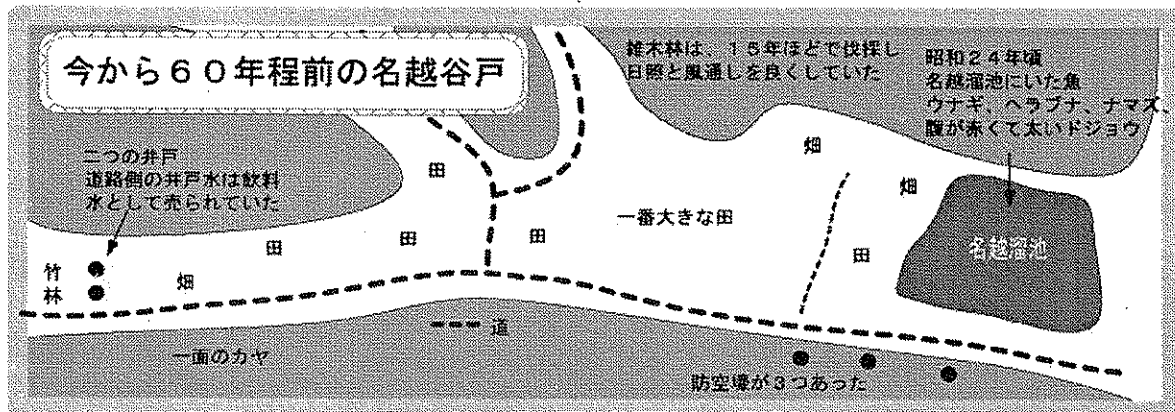
水辺には、まちの歴史や人々の暮らしが映し出され、さまざまな生き物が集まり、四季折々のまちの表情があります。その水辺環境を親しみやすい地図(マップ)にまとめて表現して、市民がみんなで守っていく、きっかけにしたいと思います。

手始めに、逗子市の真ん中を流れる田越川の水辺を、部会のメンバーでゆっくり歩きながら観察(ウォッチング)し、マップを作っているところです。

水質を調査しながら川沿いを行くと、アシやガマなどの植物、多数のコイばかりでなくボラの子、フナやオイカワ、そしてアユも多数見られます。11月3日には体長80センチの大きなサケも1匹発見しました(北の海からはるばる来たのか、感激...)。カモ、セキレイ、コサギ、そして水辺の宝石と呼ばれるカワセミも見られます。



↑田越川の源流部を観察中。行かれたことはありますか？

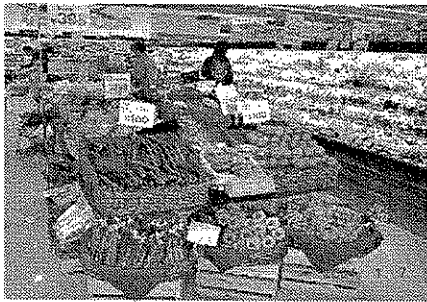


# ごみ問題部会

ごみ減量をめざして活動する当部会では、一日も早い容器包装プラスチックの分別資源回収を期待していましたが、年度内実施は見送られそうです。容器包装プラスチックの家庭ごみ全体に占める体積比は60%以上です。勿論、ごみになる以前の段階で減らすことがベストなわけですから、今年度はそのための活動を中心に据えて行ってきました。新年からは若い意欲的な部会員の参加も得られましたので、一層の活性化が期待できるのではと思っております。では、今年度活動の概要をご報告いたします。

## トレー不使用の運動

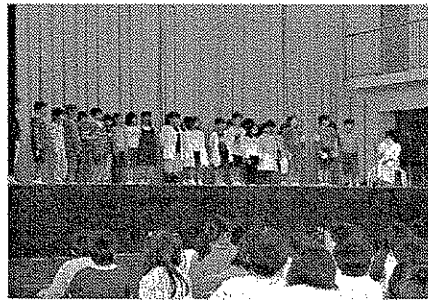
昨年度末、スーパー・生協での包装容器の使用状況調査をまとめ、裸売り商品についてお知らせしました。その結果として包装容器のうちのポリ袋などは、ただちに使用を止めることは無理と判断しました。そこで手始めに、発泡スチロールトレーに絞って、これをなるべく使用しない運動をやることになりました。発泡スチロールに含まれるスチレンは発ガン性も指摘され、環境ホルモン作用も疑われている物質です。最終的に焼却されることを考えると、どうしても排除したい物質です。



調査の結果、魚類・肉類はどのスーパーでもほとんど使用されていました。しかし、野菜・果物類については、店舗によって様々でした。その中で西友ハイランド店では一切使用していないことが分かりました。そこでまず、「野菜・果物類は発泡スチロールトレーに入れずに販売する」に向けて運動を展開します。そのために、各店舗の代表者とこのテーマで話し合いの場を持つことを企画しています。

## 環境授業のその後

前号で、逗子小学校での環境授業についてお知らせしましたが、その後、1年生の担任の先生から、生徒さん達が捨てられていた傘を拾ってきたので、それで買い物袋を作ってほしいと連絡がありました。授業の中で、ごみの減量の例として、古傘から買い物袋を作る話を聞いて、早速、実践してくれたのです。これを何とか前向きに活用しようと、PTAで古傘利用の研修会等を企画して頂けたらと校長先生に依頼したところ、次年度の活動計画に提案して頂けることになりました。



4年生については「一学期間のゴミを考える学習」のまとめとして「ゴミのまちからSOS!」という創作劇の発表会があり、ごみ部会のメンバーも招待されました。

夏休みを返上して作った台本は、一学期に学んできたごみについての知識をフルに盛り込んで良く考えられ、演技も借り物でない実感が表現されていて、担任の先生の意欲的なご指導と相まって、素晴らしいまとめ授業が展開されていました。

## 市民まつりを終えて

10月19日の市民まつりにおいて

- ①不法投棄ウォッチングマップ
- ②スーパー、生協の商品裸売り写真
- ③値段を添付した包装容器の実物

を展示しました。いずれも、部会活動の中から、その実態状況を市民に特に伝えたいものです。見学して下さった人も昨年よりだいぶ増え、喜ばしい限りです。

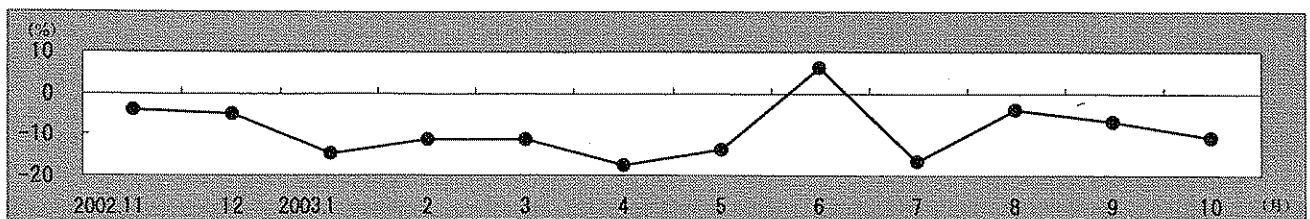


市民の方々の反応は、①については投棄されたものが、風雨にさらされ腐食して出た有害物質が土壌を汚染するのではとの危惧を、②、③については、容器の値段が意外と高いことにまず驚いていました。さらに消費者の立場から、過剰包装は避ける、裸売りの商品を選ぶなどと合わせて、ごみ減量の観点からもマイバックを持参するなど賢い消費者振りを示しました。

また、ずしし環境会議の3部会の展示スペースが1テントではあまりにも狭く、また、内部が暗く展示物が見づらいため、来場者から不評でした。テントの設営場所と合わせて今後の課題にしたいと思います。

## 可燃ごみの推移

市全域で取り組んできた紙類・布類の分別資源回収も2003年10月で丸1年を経過しました。前年同月比の可燃ごみ量は、月ごとに電光掲示板にお示ししましたが、年間を通じては次のような結果になりました。



# 二酸化炭素削減部会

私たち二酸化炭素削減部会のメンバーは自分達に取り組める身近な問題を取り上げて活動していますが、この号では活動テーマの一つである JR 逗子駅の金沢踏切と池田踏切の遮断時間の短縮についてお知らせします。

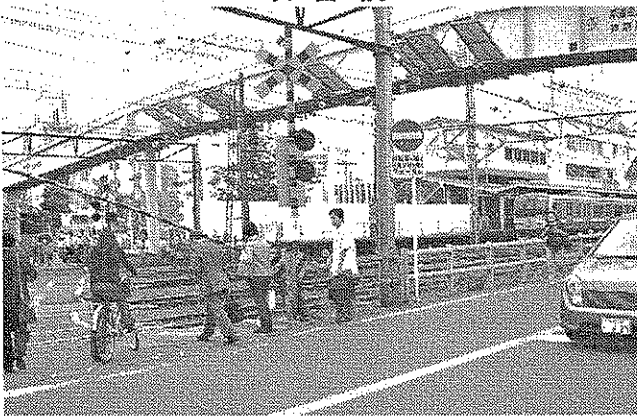
この2ヶ所の踏切は、近隣の皆様はもちろん、葉山にお住まいの方々も通り、遮断しているため、スムーズに渡れないことも多く、関心をお持ちのことでしょう。そこで、具体的に遮断時間はどのくらいなのかを調査しました。市長、関係部署のご理解もあり、JR も改善を進めてくれてますし、成果も見えつつあります。

## 1. 遮断時間の変化(いずれも調査時間はおおむね 7:00 過ぎから 8:00 迄の朝のラッシュ時間帯)

調査日	調査場所	金沢踏切 (増結作業時間を含む)	池田踏切
2001年3月14日～19日		75% (約57分間に42分強)	55% (約42分間に23分強)
2002年8月21日		60% (約53分間に31分強)	
2002年9月25日		60% (約53分間に32分)	
2003年12月3日 ※調査時間は7:34～8:04		52% (約30分間に16分弱)	50% (約40分間に20分)
改善度合		2年前に比べ、23ポイント	大きく変化なし

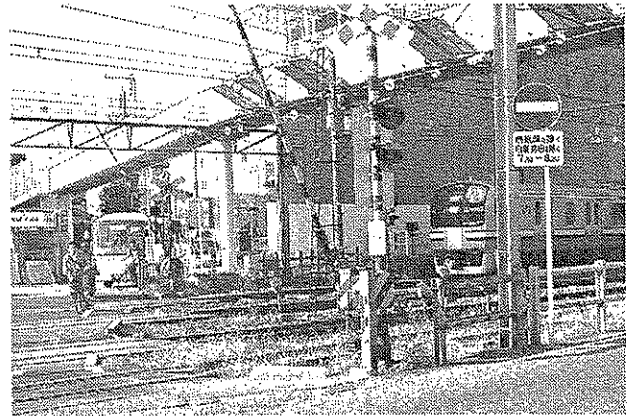
### 金沢踏切遮断状況の比較

改善前



増結車の最後尾がホームの屋根の末端にかかってから遮断機が開く。

改善後



増結車の最後尾が、踏切を通過すると遮断機が開く。平均20秒の短縮となり、1時間あたりで換算すると約2.7分の短縮。

## 2. 今後の取り組み

- (1) JRによれば、今後3年をめどに電子連動化を予定しており、人手に頼らずに遮断時間がさらに短縮されることから、部会として行政と協力して計画の促進に努めたいと思います。
- (2) 昨年10月の市民まつりの時に多数の市民のみなさまのご意見が寄せられたことから、金沢踏切内の歩道の拡幅について、今後市の関係部署と協働して、JRに働きかける予定です。

### 編集後記

- ★立春も過ぎ春分の日も間近になり、陽光を浴びる頃となりました。8号では3部会それぞれの取り組みを中心にご紹介しました。
  - ★かねてより準備していた連続講演会は、講師を交えて参会の方々との懇談する時間を長く取って開催する予定です。
  - ★今後の環境月間、市制50周年記念イベント等にも参加すべく検討しています。行政の関係部署ともども更に一層成果の上がるよう取り組んでいきたいと思ひます。
- 編集委員 出島 誠一・斎藤 稔・相澤 市郎